

第37回中間研究集会報告

1. 中間研究集会の開催

第37回中間研究集会は2019年1月13日、ラパスホール(東京労働会館)を会場に「天皇の代替わりと歴史認識・歴史教育 —2019年埼玉大会に向けて」をテーマに実施された。

午前10:00に開始し、以下の講演・報告を中心に学び合った。参加者は93名であった。講演・報告後は「憲法を生かした学校・地域をつくろう」を討議の柱に、全体会をおこない午後4:40に終了した。

- ①講演「天皇の代替わりと戦争の記憶」吉田裕氏(一橋大学)
- ②報告「小学校社会科をこれからどうするか~いくつかの歴教協実践から学んで」中妻雅彦氏(弘前大学)
- ③報告「中学校歴史学習で何を学ぶか~未来を志向する自主編成プラン(近現代)」岩田彦太郎(埼玉歴教協)

2. 講演・報告などの概要

講演に先立つ開会挨拶では、丸浜昭副委員長が日本国憲法と象徴天皇制について歴史教育者が学び、論議を深めることの重要性を指摘した。



開会挨拶(丸浜昭副委員長)



講演する吉田裕さん

①吉田裕さんの講演

吉田講演では、明仁天皇による晩餐会での戦争への反省、謝罪についての発言は平成以降に顕著化し、「謝罪特使」の役割を担った。「慰霊の旅」や終戦記念日での「言葉」は戦争体験を伝えようとする姿勢と見られているが、戦争責任のある昭和天皇の役割の「代行」であり、日本会議の機関紙にも「(サイパン島慰霊は)昭和天皇に行って欲しかった」という意見がある。

一方でこうした「公的行為」は憲法で規定される「国事行為」を超えた「私的行為」ではないのか、という批判もある。公的行為にはイラク派兵の自衛隊への接見など政治性が伴うものもあり、1992年の中国訪問には日本会議など右派からの反対運動があった。

「生前譲位」の2016年天皇メッセージは「皇室典範改正要求」という性格を持つ政治的なものであったが、大きな批判はなかった。天皇制への本質的議論がないまま新天皇に移行する問題点を含んでいる。

代替わり後の象徴天皇制は公的行為の見直し、削減の可能性が予想される。皇室外交も昨年ベトナム訪問では明らかに謝罪が「後退」し、新天皇の歴史観は現時点では不明瞭である。明仁天皇は「自分をつなぎの天皇、父ができなかった慰霊を自分の代で成し遂げる」といった発言をしており「慰霊の旅」は一代限りで役割を終えたのではないだろうか。

まとめとして(1)天皇の政治発言は批判すべき、(2)戦争体験のない天皇の即位は戦争体験の継承の問題を含んでいる、とされた。

②中妻雅彦さんの報告

中妻報告では、これまでの実践活動とこれからの教師の在り方について提起された。中妻さんは

町田市の小学校教師となるとフィールドワークで問題点を自覚し、からだをつかった授業、独立単元の構成、教師と生徒の「主客交代」を重視した授業をおこなった。1990年代後半からはそれまでの授業実践が通じなくなり、「勉強しても先が見えない」、「なぜ学校に行くのかわからない」という子どもが増えた。「子どもたちが変わっていく中で教師も変わっていかなくてはならない」と求められる教師像、「銀行型授業」からの転換を目指していくべきと提起された。

③岩田彦太郎さんの報告

岩田報告では人間関係をつくるのが苦手な子どもたちに向き合い「頭ごなしの指導、怒鳴る指導はやめよう、まずは話を聞こう」という学年団の合意を形成。入学当時は「時間的、空間的に自分の近くしか見られなかった」生徒が「戦争体験の聞き取り学習」を通じて「次世代への継承」「戦争反対」を訴えるようになり、「他の生徒の発表から考えたこと」を文化祭で学習発表した。その様子は映像でも紹介されたが「荒れていた」と思えないくらい成長を感じた。生徒が「自分につながる世界」として戦争体験を聞き、世界が広がったのではないかと、未来志向とは「自発的な思考を引き出す学習」ではないかと提起した。

全体会では戦争体験者からの聞き取りが難しくなる中で戦争体験の継承の必要性と新たな取り組みが提起された。また、行政や右派からの戦争学習への攻撃も報告されたが、時間がオーバーしやむなく発言を打ち切らなければならないほどであった。

3. 集会を終えて

(A) 吉田講演は、日本国憲法のもとで象徴天皇制はどうあるべきなのかを考えさせてくれる講演であった。私たちは代替わりの年にあたって、日本国憲法と象徴天皇制の問題、歴史認識・歴史教育における戦争の記憶という課題にどう向き合うべきなのか。今年の夏の全国大会である埼玉大会に向けて、さらに論議を深めていく必要があるのではないかと。

(B) 中妻報告、岩田報告とも、これまで歴教協が社会科教育・歴史教育で積み重ね大事にしてきたもの、すなわち社会科教育・歴史教育はあくまで児童・生徒を社会認識・歴史認識の主体に成長させることにあるのであり、教室でおこなわれる授業は児童・生徒の社会認識・歴史認識の発達に寄与できるものではなくてはならない、ということに改めて認識することになった報告であった。

(C) 歴教協が70年にわたって積み上げ大事にしてエッセンスは何であったのか、そして、それを一人ひとりがどのように継承していくべきなのか。今回の中間研究集会は埼玉大会に向けてそうした論議を深めるきっかけになった集会であった。



報告をする中妻雅彦さん



報告をする岩田彦太郎さん



盛り上がった全体会

4. 埼玉大会のお知らせ

埼玉大会に皆さまの参加をお待ちしています。

○日程

- ・2019年8月3日（土） 全体会(13:00~16:30)
- 4日（日） 分科会(9:00~16:30)、地域に学ぶ集い(17:00~19:00)
- 5日（月） 分科会(9:00~12:30)、閉会集会(13:30~15:00)
- 6日（火）～ 現地見学

○場所

- ・全体会：草加市文化会館
 - ・分科会：獨協大学
- ※東京メトロ日比谷線・半蔵門線直通東武スカイツリーライン
「獨協大学前<草加松原>」西口より徒歩5分

5. 2019年中間研究集会の参加者の感想

【吉田裕さんの講演】

○吉田さんの講演ではストレートに天皇制について語られるのを聞いて、天皇制と国民主権、人権との両立の難しさを再確認することができました（20代）。

○吉田先生のお話を久しぶりに直接聞きたくて来ました。講義だけでなく質疑応答も簡潔、明瞭で本質的で「さすが歴教協」と思いました（40代）。

○吉田裕さんの話は目からウロコでした。是非、『歴史地理教育』で連載して頂きたいですね。明仁さんのことをメディアは持ち上げてますが、やはり権力をもった天皇という存在としてしっかり見つめていく必要があります（50代）。

○久しぶりに中間研究集会に参加しました。天皇制（象徴天皇制と戦前の絶対主義天皇制）に関心を持っているので、吉田裕氏の講演を聞いて論点が整理された気がします（60代）。

【中妻雅彦さんの報告】

○高校生とは異なる小学生に対する授業について知ることができて興味深かったです。もう少し具体的な話を聞けたらよかったです（20代）。

○中妻さんの報告は、歴教協のこれまでの諸先輩方がどのような考え、どのような授業を求めてきたかを整理し教えてくれる報告でした。歴教協はすごい蓄積があることがわかりました。それを生かしていければと思いました（30代）。

○中妻さんのお話は、ユーモアに富み楽しく聞きました。草分京子さんの実践も是非、『歴史地理教育』で連載して下さい（50代）。

<中妻さんからのメッセージ>

午後、小学校の授業について、まとまった話をさせていただき、ありがとうございました。子安潤さんの「共同する社会科」の考え方を社会科授業論としてではなく教師論としても再構成しなければならないという思いがあります。今後も実践を見せていただきながら、論を進めたいと思いました。

【岩田彦太郎さんの報告】

○岩田さんの報告がとてもよかったです。聞き取りの実践だけでなく3年間の生徒の成長、教員集

団の団結、頑張りなど本当に頷くところがたくさんあるお話でした。報告としてまとまっていたと思います。私も聞き取りの実践をしています（40代）。

○私も2006年から毎年、聞き取りの課題を中3に出して取り組んでいます。直接体験の聞き取りの難しさ、継承の課題に関して私は「地域の平和運動に子どもたちをつなぐ」という取り組みが今こそ大事だと思っています。長野県佐久地域では毎年夏に「戦争展」が行われます。歴教協、教組も加盟する「ピースアクション佐久」が主催で、私は「聞き取り対象者が見つからない人は戦争展に行こう」と子どもたち&家庭にチラシを配るようにしています。

今年度も72名の3年生のうち、10名以上が戦争展に足を運びました。また、戦争展を経験した青年たちも今度は企画サイドで誘うきっかけにもなっています。

同じ課題を共有する同世代の岩田さんの報告に勇気が湧きました！（40代）。

○岩田さんの報告は埼玉歴教協が大切にしてきたことをまとめ、これからの歴史学習の目指す先をしっかりと示してくれていたと思います。岩田さん、応援しています（50代）。

【その他】

○もっと若い人が参加しているとよいかなと思いました。中身がよいので残念です（20代）。

○吉田講演では質の高い質疑応答となり、思わずのめり込んだ。これも司会者が一人一問として司会運営を工夫した効果だと思う。こういう集会では特定の人が長々と持論を展開したり、一人でいくつもの質問をしたりして場を壊すこともあるが、そういうことをあらかじめ防ぎ、吉田さんが質問に的確に答えやすいようにしたことで、質の高い質疑応答になったのだと思う（30代）。

○天皇制については本当にタイムリーでよかったです。『歴史地理教育』2018年7月号のプレゼントはとてよかったですと思います。会員でない方が手にして見ていました。これもまた実物教材です。続けて欲しい欲しいと思いました（60代）。